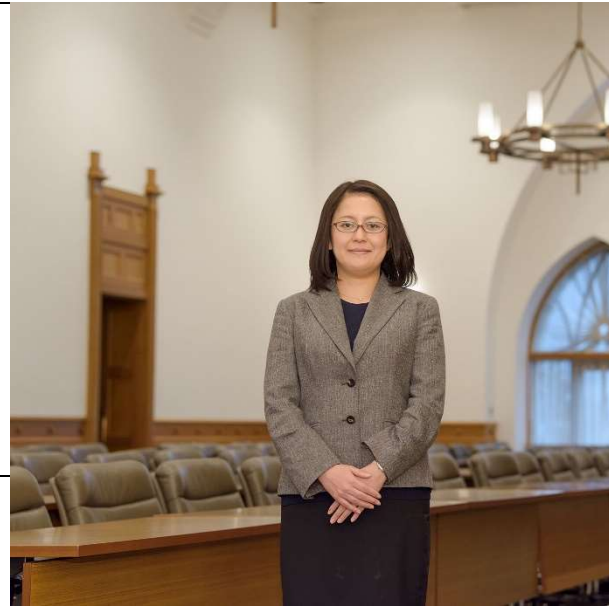


井深陽子 教授

専門：医療経済学

(インタビュアー：染野哲哉)



Q 先生のご専門を教えてください

A 私の専門は医療経済学と呼ばれる分野です。

医療と名前がついていますが、広く健康全般のことを扱います。経済活動は人々の健康の上に成り立っているので、経済活動の意思決定についても、健康について扱うことは非常に重要です。経済発展は、間違いなく人類の健康状態の改善に寄与してきましたが、例えば、今回の新型コロナウイルスの場合のように、経済活動が活発になることが、逆に感染症を広めてしまうこともあります。このように、医療経済学は、経済活動と健康の複雑な相互作用を考える分野であると言えます。医療経済学では、個人の意思決定といったミクロ的なアプローチから、政府の経済政策のようなマクロ的なアプローチもあります。私は特に、感染症に関する個人や政府の意思決定を研究テーマの一つとして取り組んできました。政府の感染症対策は、外部性という他の非感染性の疾患とは異なる側面があり、そこにも関心があ

ります。私の研究の一つをお話しすると、地方自治体のワクチン補助の意思決定がどのように決まるのかに関するものです。また先日は、新型コロナウイルス対応に関する諮問委員会に出席しました。感染症対策という公衆衛生上の政策が経済活動に大きくかかわってくる中で、経済学者がその議論に参加する必要性を感じています。

Q 先生の学生時代について教えてください

A 私は、慶応経済の出身なのですが、最初はよいスタートを切れたというわけではないですね。新生活に慣れるのに忙しかったです。2年生になって、せっかくなので本腰を入れて勉強したいなと思いました。2年次のミクロ経済学の授業で、自分の行動が数学的に説明されることの面白さを感じました。また、友達と取った自由研究セミナーを通じて、少人数で研究に関して話すことの面白さを感じました。その後、大学院への進学を志し、経済学を使った仕事に就きたいと考えていました。医療経済学との出会いは留学先のアメリカです。元々はベイジアン先生に師事をしていましたが、RA(Research Assistant)先の先生の専門が、医療経済学でしたので、それがきっかけでした。当時もアメリカでは医療経済学分野の研究が盛んで、大学では、経済学部だけでなく、附置研究所、公衆衛生大学院、公共政策大学院などの専門

職大学院、そして民間や政府系シンクタンクにも医療経済学所がいて、基礎から応用まで幅広く研究が行われていました。

Q 先生の教育理念を教えてください

A そうですね、やはり大学生なので、自分で考えてそして行動できるようになってほしいですね。考えることと、行動することのどちらも重要です。研究会全体の活動は、学生さんたちが自分たちで運営して、私はアドバイスをしたり、必要に応じて助けを出すという形を目指しています。ゼミでは、皆が研究会という集団の学びの場をより良くするように考え、行動してくれていると感じています。

Q ゼミはどのようなことをしていますか？

A 本ゼミでは、3年生の前半は輪読をしています。輪読では、医療経済学に関する本と、実証分析に関する本の2冊を三田祭論文に向けて読みます。サブゼミは学生たちに任せています。後半は、三田祭論文を書き、それを深掘していくことと、教科書をさらに読み進めていくことをします。4年生は、卒論を書く必要があるのですが、そのための論文を読んで、執筆してもらいます。論文は私が選びますが、医療経済学の専門の学術誌に掲載されているもので、かなり難しいものもありますが、4年生になるとみんな読めるようになります。

秋はずっと卒論に集中してもらっています。卒論は、ゼミ活動の集大成として重視しています。

Q ゼミを志望する 2 年生に求めるものは何ですか？

A ゼミ全体としては、**多様性**を求めています。様々なバックグラウンドを持つ人が入ってきてくれるとよいと感じています。バックグラウンドが違い自分と異なる考えを知ることは楽しいですし、そのことにより新しいアイデアが生まれます。個人としては、三田に来て研究したいと思っている方を求めています。面接でも、**何をしたいのか**ということを聞きます。どういうことに関心を持ち、関心を持った内容についてどのように情報収集しているのかを知りたいですね。またゼミに入る理由は、人によってまちまちだと思いますが、自分はゼミでこれを達成したい、という目標のようなものをしっかりと持っていてほしいですね。

Q 最後に 2 年生に向けたメッセージをお願いします。

A 一緒に医療経済学を研究してくれる人を待っています！ぜひ説明会にも来てください！

編集後記

今回は、最近かなり注目が集まっている医療経済学の井深先生にインタビューをさせていただきました。インタビューでは、ここには書ききれなかった多くの研究成果を教えていただき、勉強になるとともに、私も医療経済学に非常に興味がわきました。ここまで、3人の先生をインタビューさせていただいて、共通することが2つあると感じました。1つ目は、先生方は学生に自主性を求めているということです。これからゼミを受験する2年生は、ぜひゼミの面接までに何がしたいのかということをしっかり考えていただければと思います。2つ目は、何かしらの授業や先生に触発されて、経済学に強くひかれたということです。ゼミがそのような機会になればと思います。

2020年 8月24日 染野哲哉